



竹取物語の作者恨み持ってた説

真鍋拓未、樋口英莉 佐藤 椰

背景・目的

私達の疑問点

- ・本文は五人の貴公子の話が3分の2以上を占めるが、童話「かぐや姫」では五人の貴公子の存在が薄い
- ・揃いも揃って悲惨な最後
- ・帝も貴族も失敗
- ・帝にもモデルがいるか気になった

すでに分かっていること

- ・5人の貴公子にかぐや姫はそれぞれ
 - 石作皇子 → 仏の御石の鉢
 - 庫持の皇子 → 蓬萊の玉の枝
 - 右大臣阿倍御主人 → 火鼠の皮衣
 - 大納言大伴御行 → 龍の頸の5色の玉
 - 中納言石上麻呂 → 燕の子安貝
- を結婚の条件として提示
- ⇒すべて失敗
- 姫が天人と帰ることを誰も止められなかった

- ・5人の貴公子はモデルあり
- ・帝に関する説明はない

仮説

・貴族が5人とも失敗に終わっているのに特にその後の話とも絡んでこないため物語のためというより、元ネタとなる5人への批判や怨恨を込めたのではと考えた。

・帝の失敗が書かれた背景には、物語が書かれた時代の**政治体制などに対する**不満があったのではないか。

研究の方法

- ・竹取物語の原文、現代語訳を読む
- ・論文を読む
- ・インターネットで調べる

参考文献

日本古典文学全集小学館 片桐 洋 1985年 / 少年少女古典文学館 北 杜夫 2009年

日本文学全集竹取物語 森見 登美彦 2014年

京楽真帆子 古典に親しむ 2011年

<http://www.shc.usp.ac.jp/kyouraku/profile/thesis/taketori.html>

清和天皇の授菩薩戒-Stage https://www.jstage.jst.go.jp/article/nbs/_pdf 河上 麻由子2010年

結果・結論・考察

[貴族]

・貴族たちのモデルは五人とも実際に飛鳥時代から 奈良時代に実在した人物であり、政治的大成をおさめた人物だった

・この時代に読み書きができ、物語を作れる

→ **教養のある貴族が作者か**

・5人の貴族はみんな位が高いため、大納言など高い位に就けなかった貴族からは恨みを買われていたはず

→ **作者の系譜も？**

→ **この時の権力争いの敗北で作者の時には落ちぶれたか**

[帝]

・帝のモデルはいない

・清和天皇即位(858年)

→ **本来は惟喬親王が即位できるはずだった(母:紀氏出身)**

・応天門の乱(856年)

応天門が放火される(天皇の居所「大内裏」(だいたいり)にあった正殿「八省院」(はっしょういん)の正門)

→ **政治的混乱**

この時代は初の摂関政治で天皇の権威が揺らぎ、無理に権威をあげようとした天皇菩薩説を暗に批判し、天人を登場させることで帝の絶対性を否定しようとした

本来は惟喬親王が即位できるはず

→ 藤原氏を後見に持つ清和天皇に勝てず

→ 作者は没落に繋がった紀氏？

これらのことから竹取物語は作者の権力者への風刺が含まれていたのではないか